

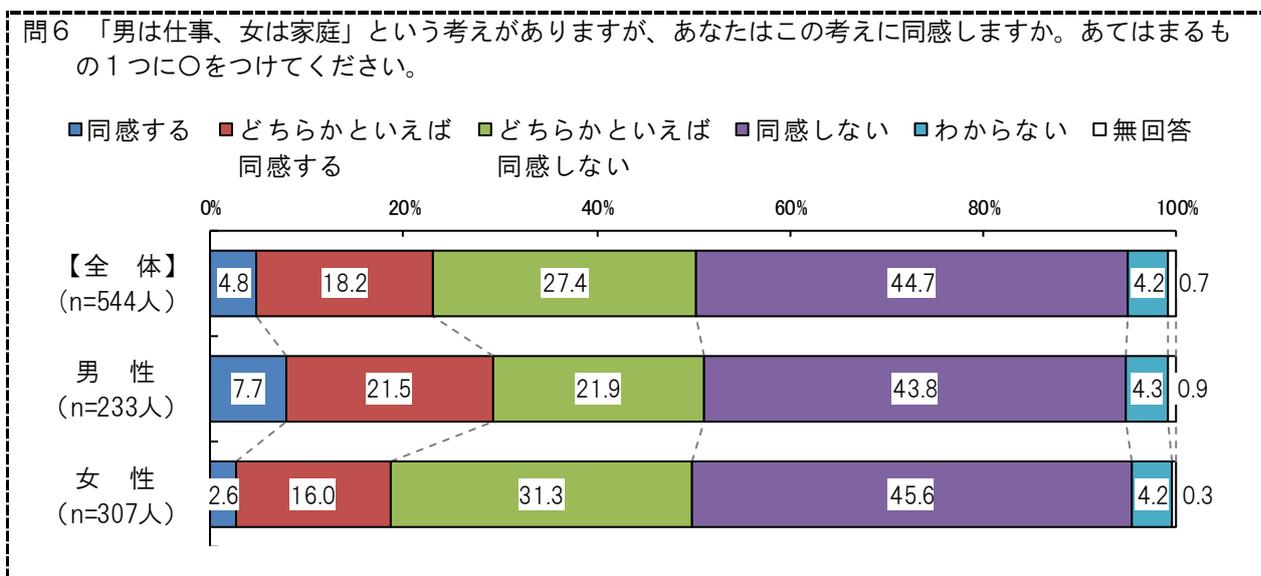
# アンケート結果（速報）と潮来市男女共同参画基本計画施策の実施状況

男女共同参画アンケート調査結果を『潮来市男女共同参画基本計画』の柱立てに沿ってまとめます。

## 『基本目標 1 実現すべき家庭の姿』について

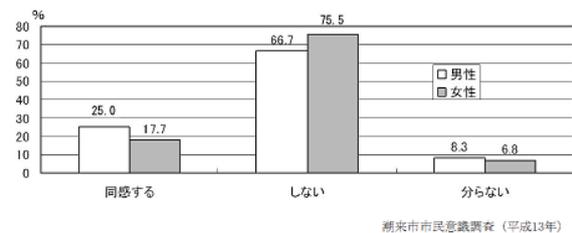
【アンケート結果から】

○「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「同感しない」、「どちらかといえば同感しない」の合計は、女性が76.9%、男性が65.7%であり、潮来市の平成13年度調査の女性75.5%、男性66.7%とほぼ同様の数字となりました。また、平成26年度の茨城県調査の「同感しない」、「どちらかといえば同感しない」の合計は、女性が57.1%、男性が48.4%であり、潮来市の結果は茨城県調査を上回っています。



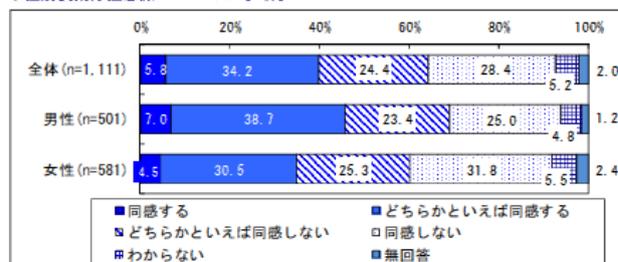
### ◆潮来市市民意識調査（平成13年）

図1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

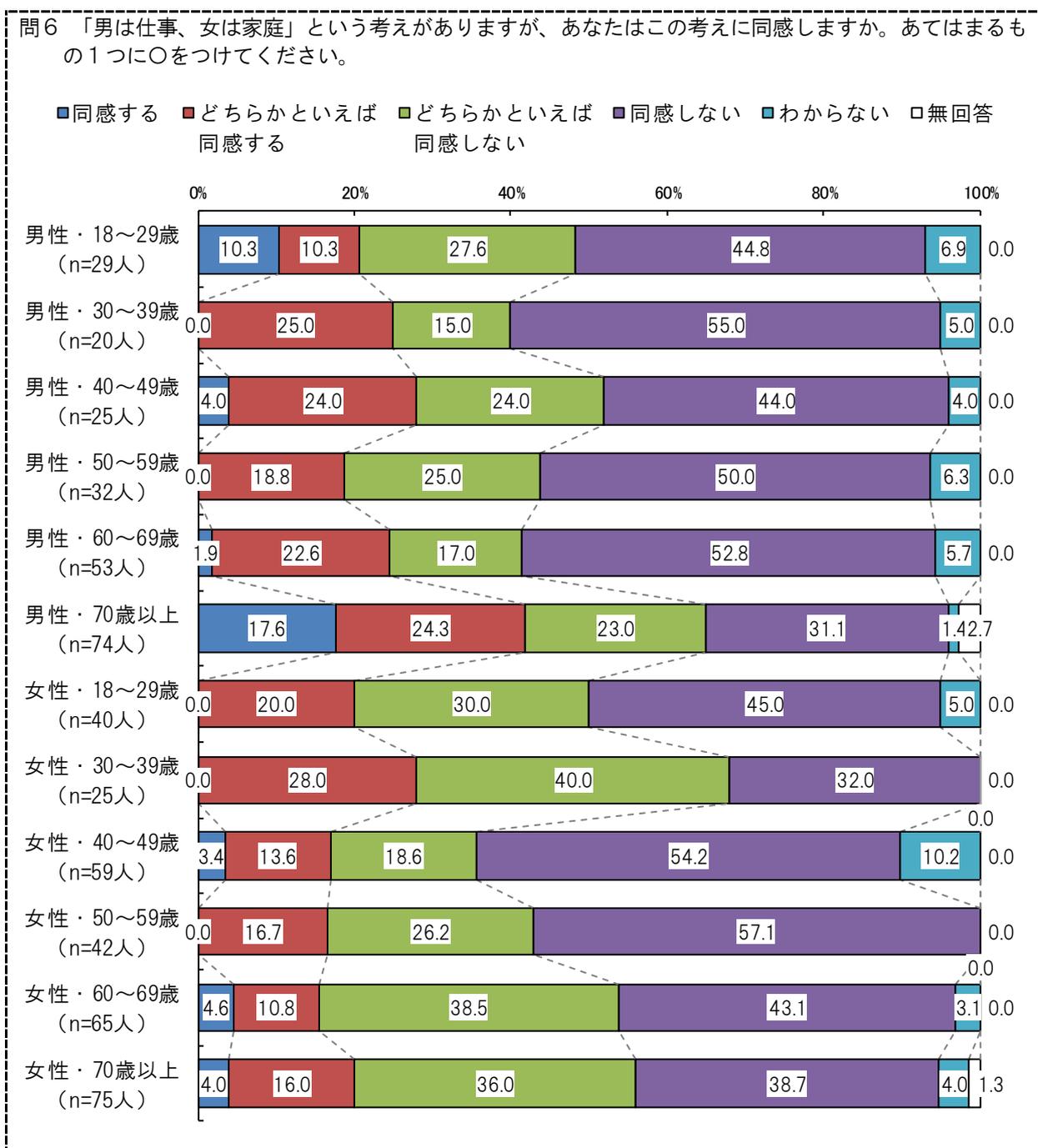


### ◆茨城県男女共同参画社会県民意識調査（平成26年）

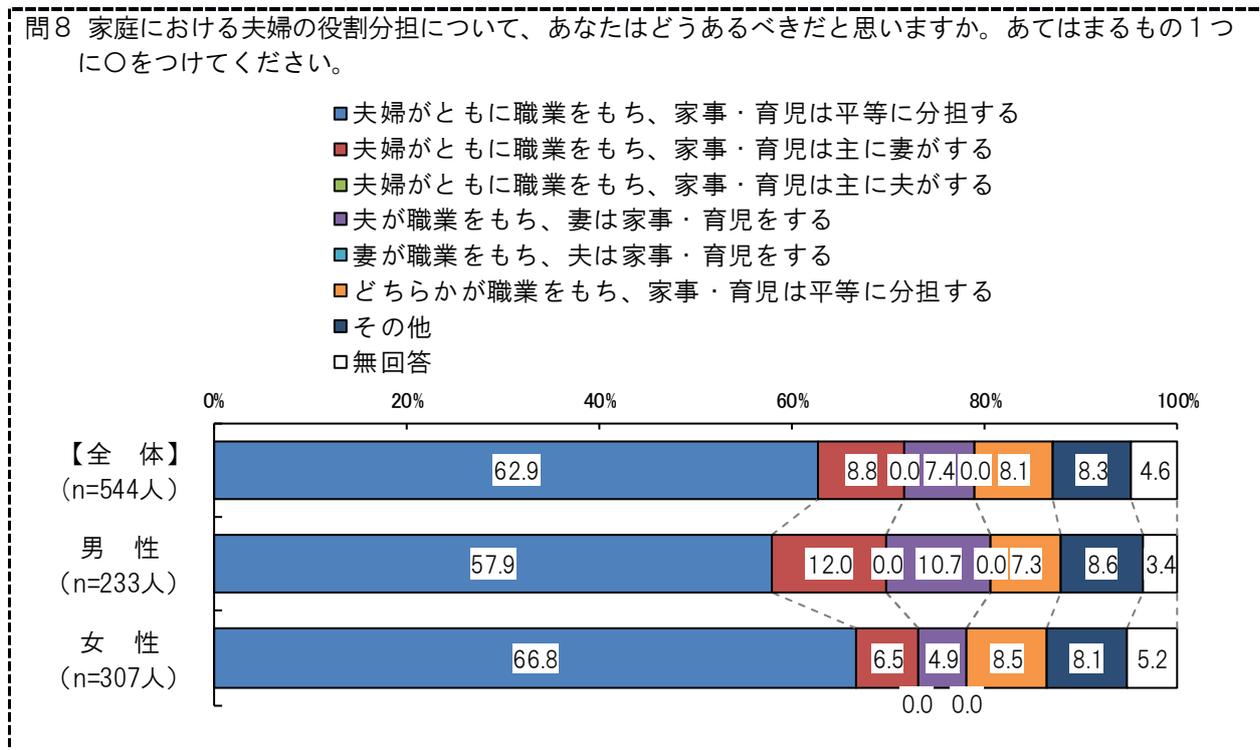
●性別役割分担意識についての考え方



○「男は仕事、女は家庭」という考え方について性・年齢別にみると、「同感しない」、「どちらかといえば同感しない」の合計は、女性の50～59歳で81.6%を占めて多くなっています。



○家庭における夫婦の役割分担については、「夫婦がともに職業をもち、家事・育児は平等に分担する」が、全体で62.9%、男性で57.8%、女性で66.8%と最も多くなっています。性・年齢別にみると、「夫婦がともに職業をもち、家事・育児は平等に分担する」は、男性の18～29歳と30～39歳、女性の30～39歳で80%以上となっています。



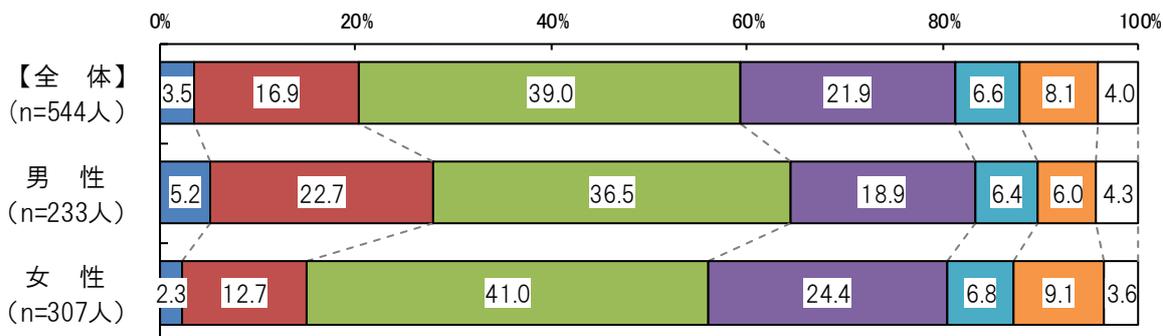
性・年齢別	夫婦がともに職業をもち、家事・育児は平等に分担する	夫婦がともに職業をもち、家事・育児は主に妻がする	夫婦がともに職業をもち、家事・育児は主に夫がする	夫が職業をもち、妻は家事・育児をする	妻が職業をもち、夫は家事・育児をする	どちらかが職業をもち、家事・育児は平等に分担する	その他	無回答
男性・18～29歳 (n=29人)	82.8	3.4	0.0	6.9	0.0	0.0	6.9	0.0
男性・30～39歳 (n=20人)	80.0	5.0	0.0	5.0	0.0	5.0	5.0	0.0
男性・40～49歳 (n=25人)	56.0	12.0	0.0	12.0	0.0	4.0	16.0	0.0
男性・50～59歳 (n=32人)	50.0	12.5	0.0	3.1	0.0	15.6	15.6	3.1
男性・60～69歳 (n=53人)	66.0	18.9	0.0	3.8	0.0	3.8	5.7	1.9
男性・70歳以上 (n=74人)	40.5	12.2	0.0	21.6	0.0	10.8	6.8	8.1
女性・18～29歳 (n=40人)	67.5	12.5	0.0	2.5	0.0	10.0	7.5	0.0
女性・30～39歳 (n=25人)	80.0	4.0	0.0	4.0	0.0	4.0	4.0	4.0
女性・40～49歳 (n=59人)	67.8	3.4	0.0	1.7	0.0	10.2	15.3	1.7
女性・50～59歳 (n=42人)	66.7	9.5	0.0	7.1	0.0	11.9	4.8	0.0
女性・60～69歳 (n=65人)	67.7	9.2	0.0	3.1	0.0	7.7	7.7	4.6
女性・70歳以上 (n=75人)	61.3	2.7	0.0	9.3	0.0	6.7	6.7	13.3

○「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況の理想と現実では、理想は『「家庭生活」または「地域・個人の生活」と「仕事」を両立したい』が、全体で39.0%、男性で36.5%、女性で41.0%と最も多くなりましたが、実際では、『「家庭生活」または「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している』は、全体で16.9%、男性で15.0%、女性で18.2%となっています。実際に最も多いのは『「家庭生活」または「地域・個人生活」にも携わりつつ「仕事」を優先している』が全体で27.0%、男性で35.2%、女性で20.8%で最も多くなっています。

問14 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況について、理想はどうあるべきだと思いますか。また、実際はどうですか。

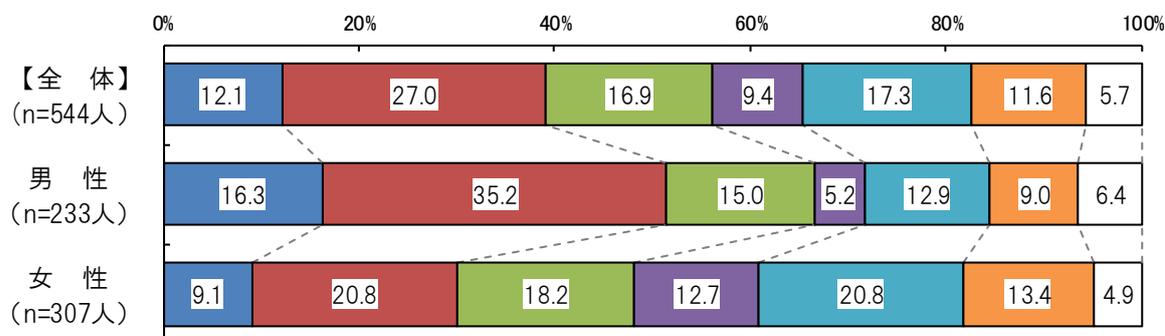
【①理想】あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 「仕事」に専念したい
- 「家庭生活」または「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」または「地域・個人の生活」と「仕事」を両立したい
- 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」または「地域・個人の生活」を優先したい
- 「家庭生活」または「地域・個人の生活」に専念したい
- わからない
- 無回答



【②実際】あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 「仕事」に専念している
- 「家庭生活」または「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している
- 「家庭生活」または「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している
- 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」または「地域・個人の生活」を優先している
- 「家庭生活」または「地域・個人の生活」に専念している
- わからない
- 無回答

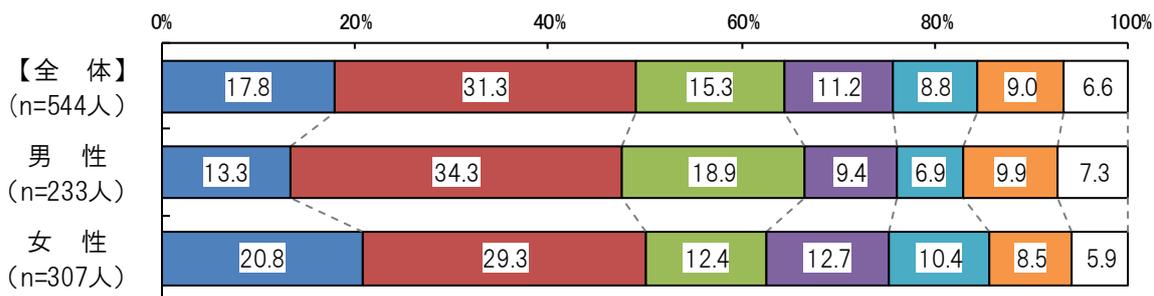


○家庭生活(家事・育児など)における男女の地位の平等に対する意識では、「どちらかといえば男性のほうに優遇」が全体で31.3%、男性が34.3%、女性が29.3%と最も多くなっています。また、「男性のほうに優遇」と「どちらかといえば男性のほうに優遇」の合計は、全体で49.1%、男性が47.6%、女性が50.1%となっており、「女性のほうに優遇」と「どちらかといえば女性のほうに優遇」の合計の全体20.0%、男性16.3%、女性23.1%を大きく上回っています。

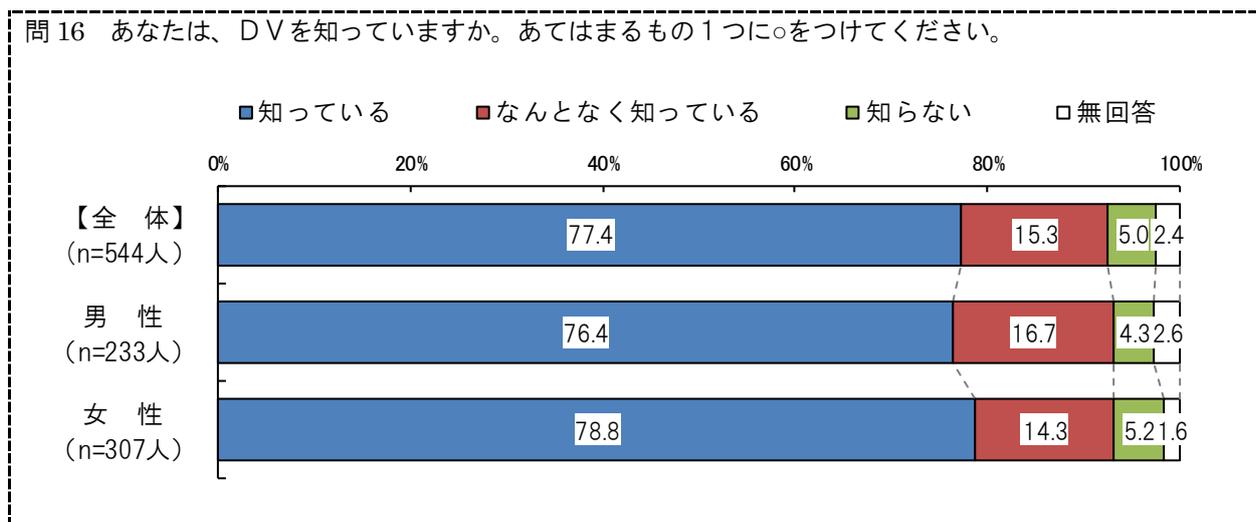
問26 次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。各項目ごとにあてはまるもの1つに○をつけてください。

ア. 家庭生活(家事・育児など)

■男性の方が優遇 ■どちらかといえば男性の方が優遇 ■平等 ■どちらかといえば女性の方が優遇 ■女性の方が優遇 ■わからない □無回答

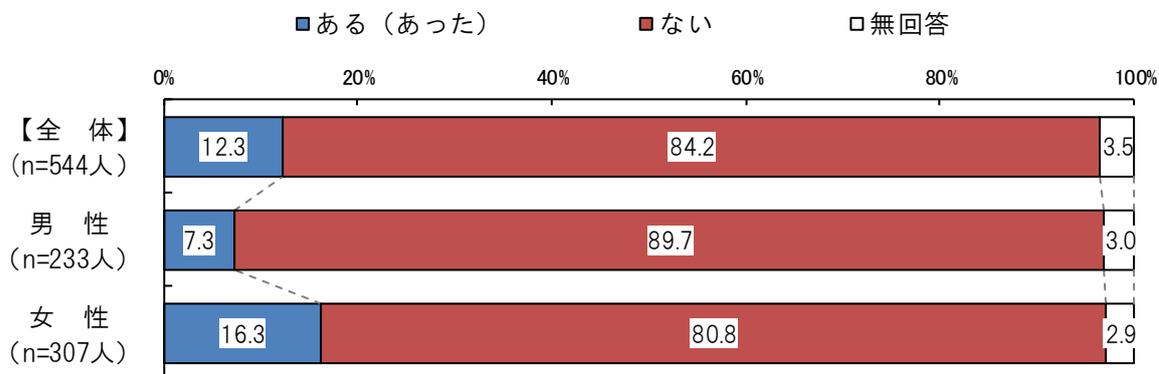


ODVについての認知度は、「知っている」と「なんとなく知っている」の合計は、男性も女性も93.1%となっています。



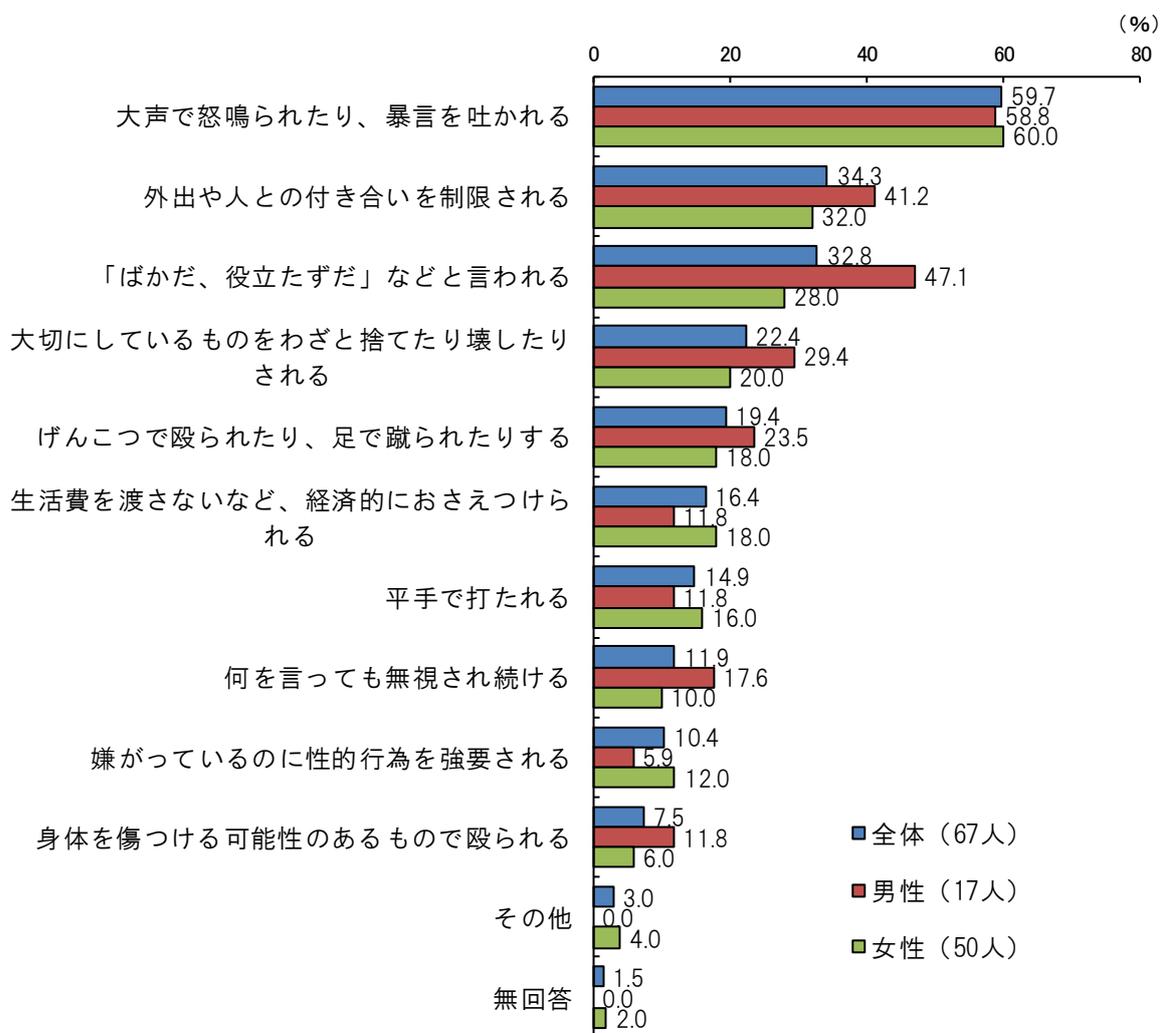
ODVを受けた経験は、「ある」が女性で16.3%、男性で7.3%となっています。DVの内容は、男女とも「大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれる」が約6割で最も多くなっています。

問17 あなたはDVを受けた経験がありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。



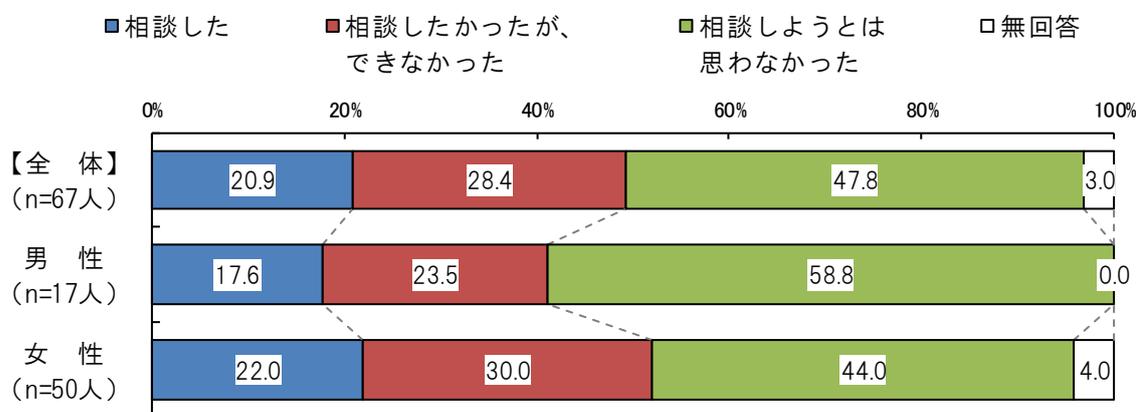
《問17で「1. ある (あった)」と回答した方に》

問18 あなたが経験したDVはどのようなものですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



ODVを受けた経験のある人で、どこかに「相談した」人は全体で20.9%であり、「相談したかったが、できなかった」は28.4%となっています。その相談相手は、「親・きょうだいなどの家族」が最も多く、続いて「友人・知人」と「警察」となっています。

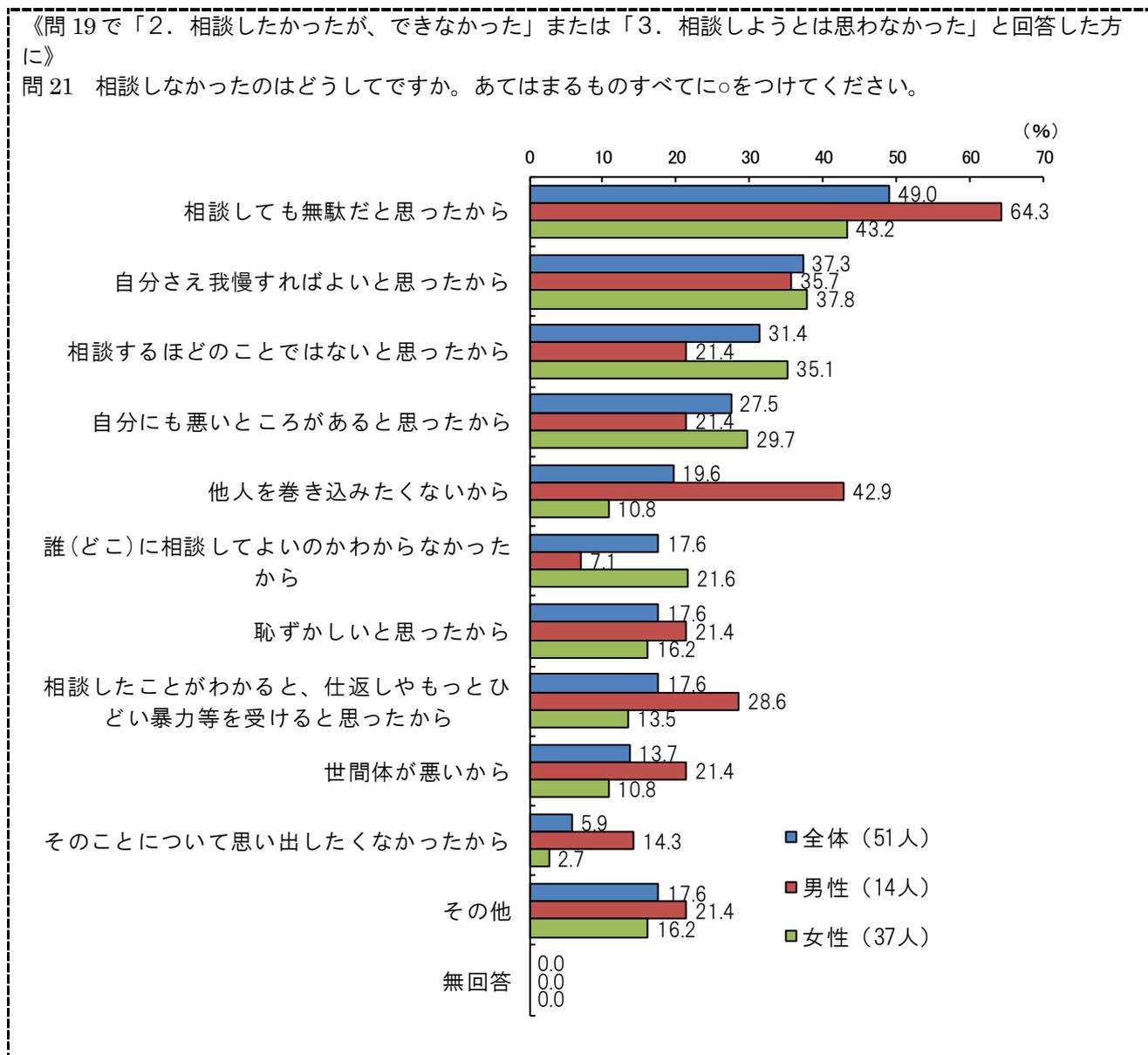
《問17で「1. ある(あった)」と回答した方に》  
 問19 DVの被害にあったとき、誰(どこ)かに相談しましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。



《問19で「1. 相談した」と回答した方に》  
 問20 相談は誰(どこ)にしましたか。(電話相談も含みます。)あてはまるものすべてに○をつけてください。

相談した人		回答数(人)
相談先	親・きょうだいなどの親族	10
(複数回答)	友人・知人	4
	警察	4
	医療機関	1
	弁護士などの専門家	1
	人権擁護委員	0
	民生委員	0
	県や市などの行政の相談窓口	0
	NPOなど民間の相談機関	0
	その他	0
	無回答	0

ODVについて「相談したかったが、できなかった」と「相談しようと思わなかった」理由については、「相談しても無駄だと思ったから」が49.0%と全体で最も多く、続いて「自分さえ我慢すればよいと思ったから」が37.3%、「相談するほどのことではないと思った」が31.4%となっています。



## 【施策の実施状況】

### 課題1 家庭生活への男女共同参画の促進

- 介護保険制度などの充実により介護への女性の負担軽減を図るとともに、家庭教育学級を通じて家庭での性別にとらわれない意識づくりを促進しました。
- 農業における女性の活躍を促進するため、家族経営協定の締結促進や女性農業士の育成に努めています。
- さらに、家庭における健康づくりを目指し、健康相談や健康教室の充実を図っています。
- 女性の健康づくり支援（骨粗しょう症、子宮がん・乳がん検診等）や男性の料理教室など、男女の生涯を通じた健康づくりを支援しています。

### 課題2 家庭における暴力の根絶

- DV防止法やストーカー防止法、セクシャル・ハラスメント防止法などの啓発に努めるとともに、DVなどに対する相談・カウンセリングを行っています。また、関係機関が連携し、高齢者や児童などへの虐待防止に努めています。

### 課題3 多様なライフスタイルに対応する支援体制

- 子ども・子育て支援計画の推進し、認定こども園の整備や子育てに関する相談支援体制の充実を図り、仕事と家庭の両立を支援しています。また、各種のセミナーなどを活用した仕事と家庭の両立や働き方の見直しなどの普及啓発に努めています。

## 『基本目標2 実現すべき学校の役割』について

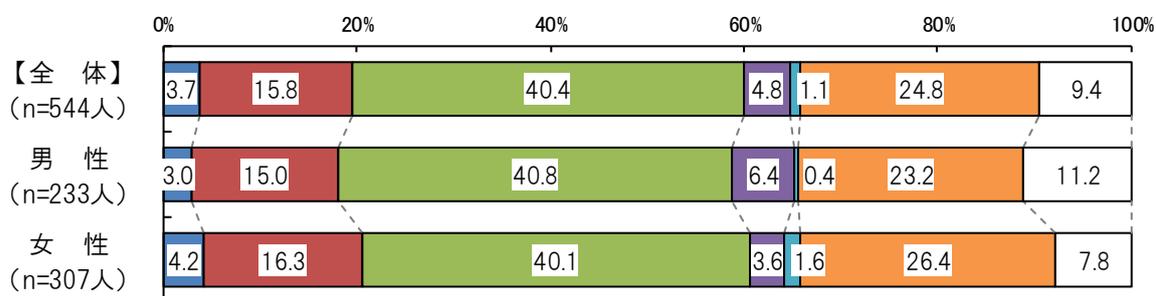
### 【アンケート結果から】

○学校教育の場における男女の地位の平等に対する意識では、「平等」が全体で40.4%、男性が40.8%、女性が40.1%と最も多くなっています。この割合は、家庭生活や職場、政治の場などの設問9項目の中では最も高い数字となっています。

問26 次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。各項目ごとにあてはまるもの1つに○をつけてください。

ウ. 学校教育の場

■男性の方が優遇 ■どちらかといえば男性の方が優遇 ■平等 ■どちらかといえば女性の方が優遇 ■女性の方が優遇 ■わからない □無回答



## 【施策の実施状況】

### 課題 1 男女共同参画の視点にたった学校教育全体を通じた指導の充実

- 人権や男女共同参画に関する教材の活用を行うとともに、男女混合名簿の実践や家庭科の必修を行っています。
- リプロダクティブヘルス/ライツの視点から、養護教諭による性教育や医師による講演会を行っています。

### 課題 2 教職員への人権・男女共同参画社会についての取り組みの推進

- 人権や男女共同参画に関する教職員の研修を行うとともに、スクールカウンセラーなどによる相談支援体制の整備を図っています。
- 校務分担や校務決定においては、女性の参画割合は高く男女共同参画の体制は整っています。

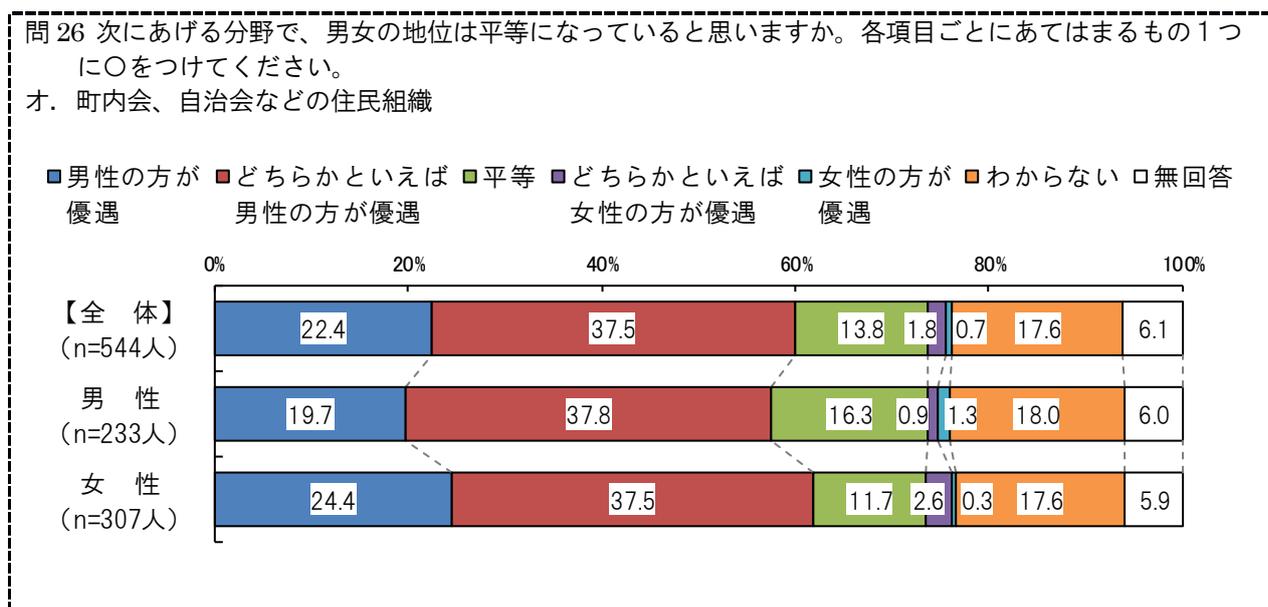
### 課題 3 学校現場における男女共同参画を推進

- 学校現場でのセクシャル・ハラスメントやパワハラ防止に向けての研修を行うとともに、教育相談や心の教室相談員の配置などによる相談体制の充実に努めています。
- 学校運営や学校行事、PTA 活動については、多くの分野において女性が活躍しています。

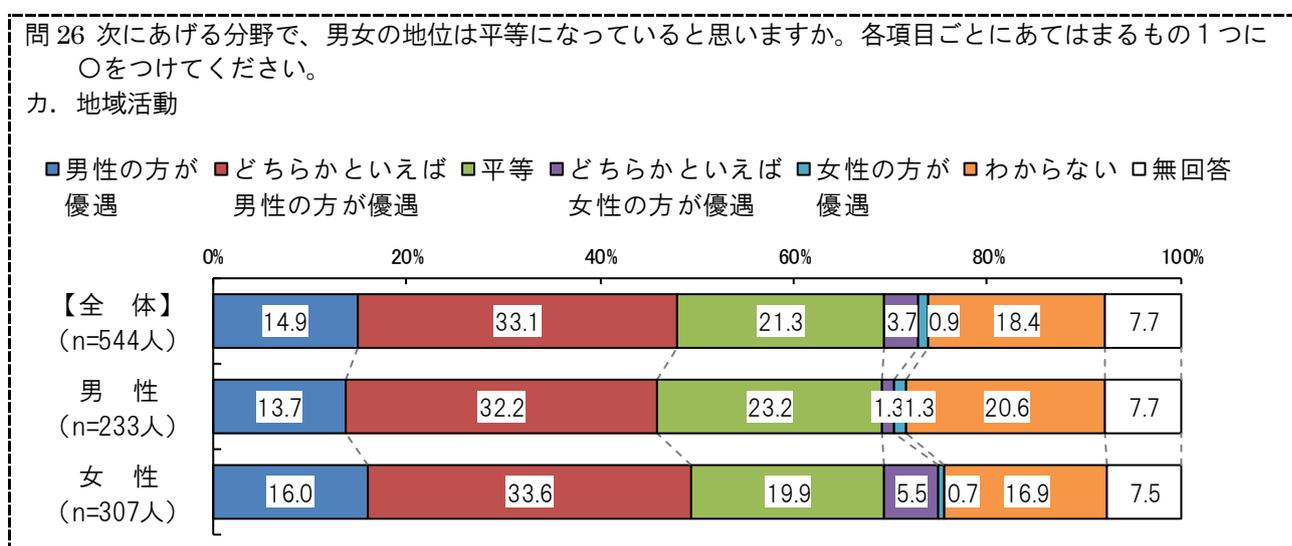
### 『基本目標3 実現すべき地域の姿』について

#### 【アンケート結果から】

○町内会、自治会などの住民組織の場における男女の地位の平等に対する意識では、「どちらかといえば男性のほうが優遇」が、全体で37.5%、男性が37.8%、女性が37.5%と最も多くなっています。また、「男性のほうが優遇」と「どちらかといえば男性のほうが優遇」の合計は、全体で59.9%、男性が57.5%、女性が61.8%となっており、「女性のほうが優遇」と「どちらかといえば女性のほうが優遇」の合計の全体2.5%、男性2.2%、女性2.9%を大きく上回っています。



○地域活動の場における男女の地位の平等に対する意識では、「どちらかといえば男性のほうが優遇」が全体で33.1%、男性が32.2%、女性が33.6%と最も多くなっています。また、「男性のほうが優遇」と「どちらかといえば男性のほうが優遇」の合計は、全体で48.0%、男性が45.9%、女性が49.6%となっており、「女性のほうが優遇」と「どちらかといえば女性のほうが優遇」の合計の全体4.6%、男性2.6%、女性6.2%を大きく上回っています。

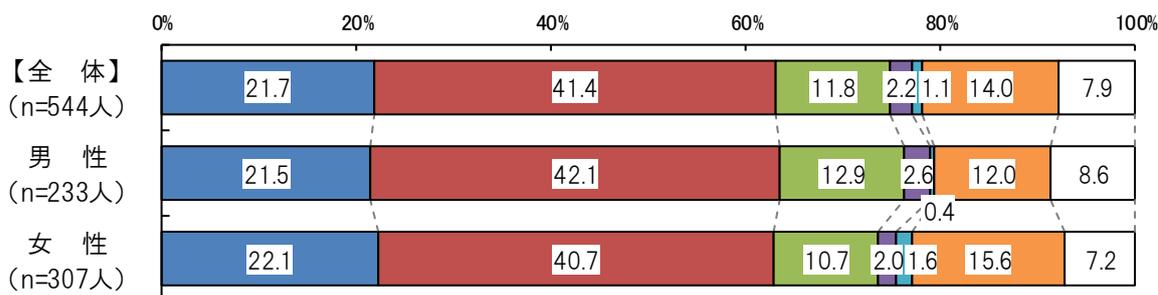


○社会通念、慣習、しきたりなどに関する男女の地位の平等に対する意識では、「どちらかといえば男性のほうが優遇」が全体で41.1%、男性が42.1%、女性が40.7%と最も多くなっています。また、「男性のほうが優遇」と「どちらかといえば男性のほうが優遇」の合計は、全体で63.1%、男性が63.6%、女性が62.8%となっており、「女性のほうが優遇」と「どちらかといえば女性のほうが優遇」の合計の全体3.3%、男性3.0%、女性3.6%を大きく上回っています。

問26 次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。各項目ごとにあてはまるもの1つに○をつけてください。

キ. 社会通念、慣習、しきたりなど

■男性の方が優遇 ■どちらかといえば男性の方が優遇 ■平等 ■どちらかといえば女性の方が優遇 ■女性の方が優遇 ■わからない □無回答



### 【施策の実施状況】

#### 課題1 男女共同参画の視点にたった地域社会活動等の推進

- 女性の地域活動を促進するため、商工会と連携した女性の起業支援を行っています。
- 女性の地域活動への参画を促すため、女性消防団員の育成や社会福祉協議会によるボランティアの育成、子育てサークルの育成、環境保全活動、消費者活動など多様な活動・活躍の場の提供に努めています。
- 人権推進員による教室を開催するなど、地域ぐるみで人権尊重や男女共同参画の推進を目指しています。

#### 課題2 多様なライフスタイルに対応する子育て支援

- 子育て支援の充実を図るため、子ども子育て支援事業計画に基づき、保育所や認定こども園、放課後児童クラブ、子育てネットワーク活動の支援、子育て広場などの整備を進めています。
- 子育て世代包括支援センターを整備し、乳児全戸訪問など妊娠から出産、乳幼児健診までの一貫した支援体制の充実に努めています。
- 男女共同参画の視点から、男性の保育士の採用を働きかけています。

#### 課題3 生涯における健康支援

- 思春期教室(小・中・高校生を対象)を開催し、思春期の性に関する相談や学習の場を提供しています。
- 健康潮来21(第二次)・潮来市国民健康保険特定検診実査計画(第2期)を推進し、市民の生涯を通じた健康づくり活動を支援しています。

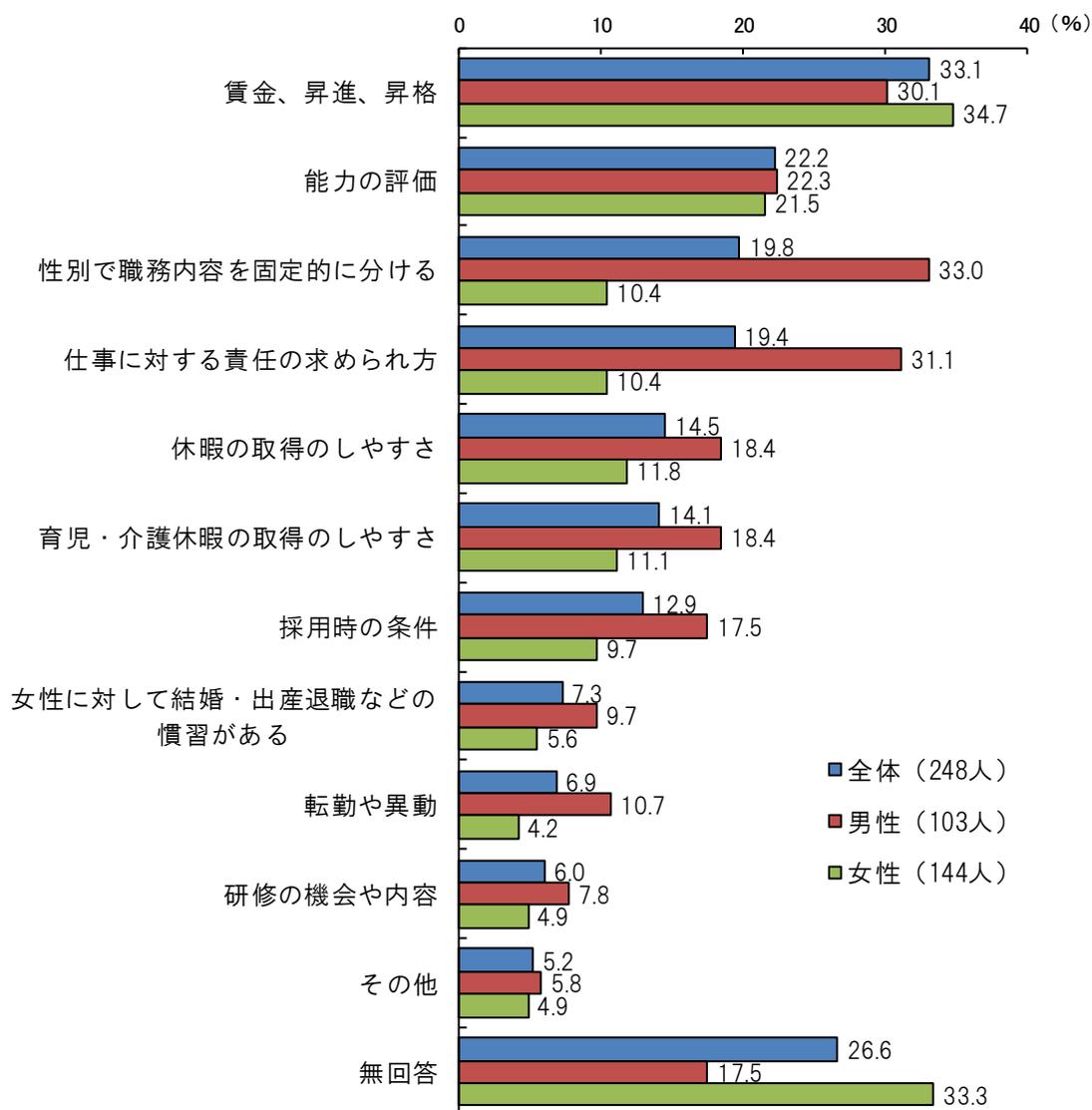
## 『基本目標4 実現すべき職場の姿』について

### 【アンケート結果から】

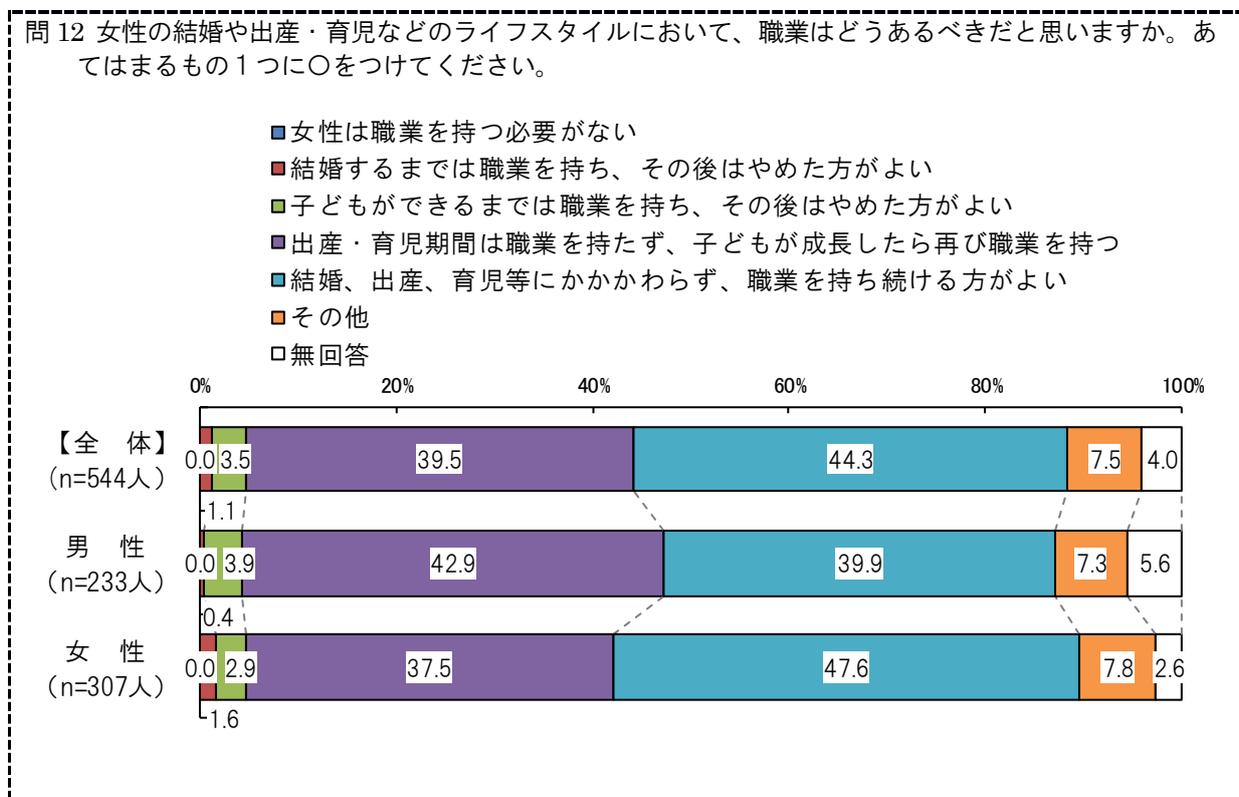
○職場で男女の地位が平等でないと思うことについては、女性では「賃金、昇進、昇格」が34.7%で最も多く、続いて「能力の評価」の21.5%、「休暇の取得のしやすさ」が11.8%、「育児・介護休暇の取得のしやすさ」が11.1%となっています。男性では「性別で職務内容を固定的に分ける」が33.0%で最も多く、続いて「仕事に対する責任の求められ方」が31.1%、「賃金、昇進、昇格」が30.1%、「能力の評価」が22.3%となっています。

《問10で、「3. 勤め人（正規の社員・職員）」、「4. 勤め人（契約・派遣・嘱託等）」、「5. 勤め人（パート・アルバイト）」と回答した方に》

問11 あなたの職場で、男女の地位が平等ではないと思うことはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



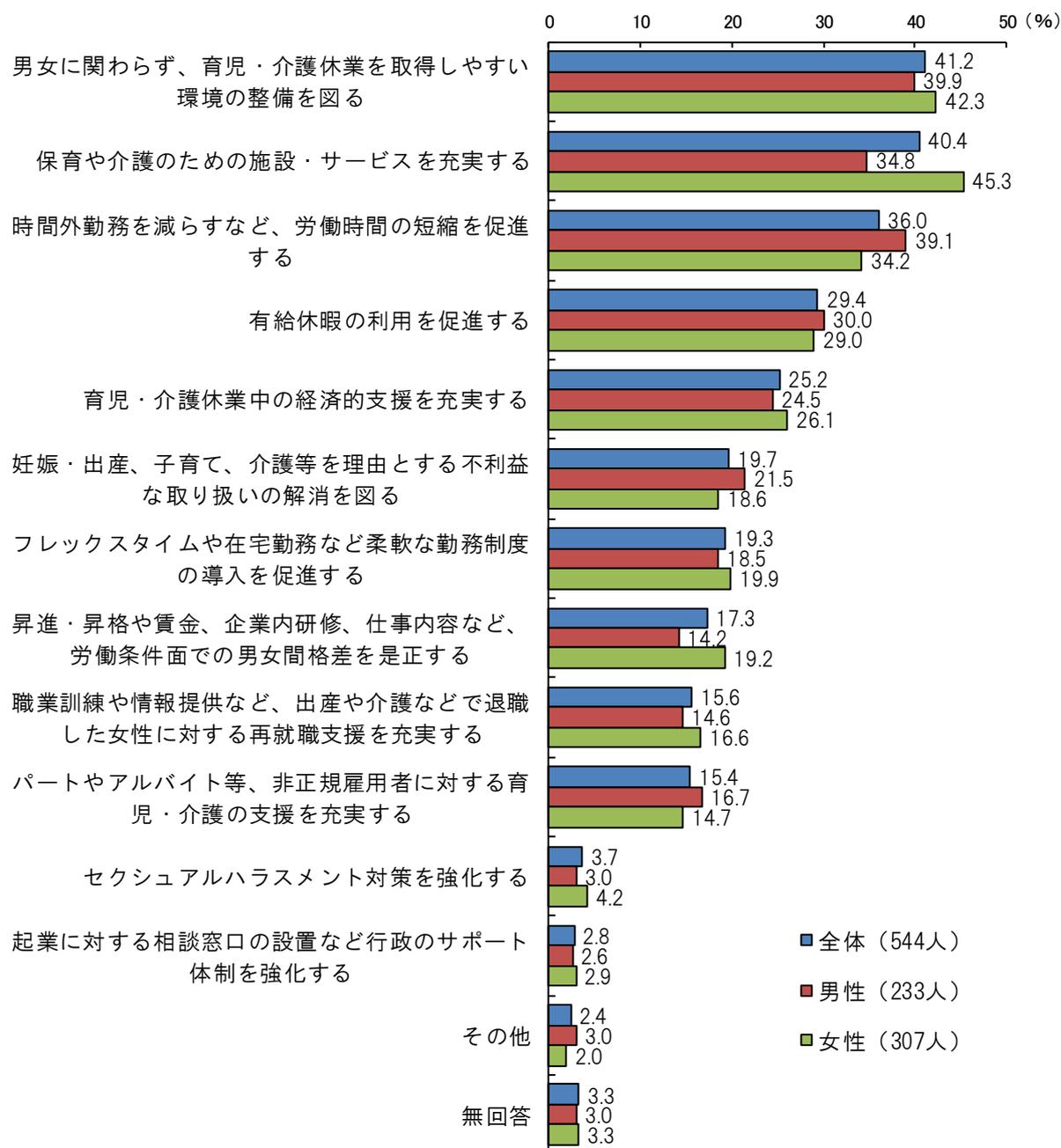
○女性のライフスタイルにおける職業の考え方については、「結婚、出産、育児等にかかわらず、職業を持ち続けるほうがよい」が、女性で47.6%と最も多くなっていますが、男性では「出産・育児期間は職業を持たず、子どもが成長したら再び職業を持つ」が42.9%で最も多くなっています。性・年齢別にみると、「結婚、出産、育児等にかかわらず、職業を持ち続けるほうがよい」は、男性の40～49歳、女性の30～39歳と60～69歳で多くなっています。



性・年齢別	女性に職業を持つ必要がない	結婚するまでは職業を持ち、その後はやめた方がよい	子どもができるまでは職業を持ち、その後はやめた方がよい	出産・育児期間は職業を持たず、子どもが成長したら再び職業を持つ	結婚、出産、育児等にかかわらず、職業を持ち続ける方がよい	その他	無回答
男性・18～29歳 (n=29人)	0.0	0.0	3.4	51.7	34.5	3.4	6.9
男性・30～39歳 (n=20人)	0.0	0.0	0.0	55.0	35.0	5.0	5.0
男性・40～49歳 (n=25人)	0.0	0.0	0.0	36.0	60.0	4.0	0.0
男性・50～59歳 (n=32人)	0.0	0.0	3.1	34.4	46.9	12.5	3.1
男性・60～69歳 (n=53人)	0.0	1.9	0.0	43.4	43.4	7.5	3.8
男性・70歳以上 (n=74人)	0.0	0.0	9.5	41.9	31.1	8.1	9.5
女性・18～29歳 (n=40人)	0.0	0.0	5.0	40.0	42.5	10.0	2.5
女性・30～39歳 (n=25人)	0.0	4.0	0.0	36.0	56.0	4.0	0.0
女性・40～49歳 (n=59人)	0.0	0.0	1.7	37.3	49.2	10.2	1.7
女性・50～59歳 (n=42人)	0.0	2.4	2.4	35.7	47.6	9.5	2.4
女性・60～69歳 (n=65人)	0.0	1.5	0.0	30.8	55.4	10.8	1.5
女性・70歳以上 (n=75人)	0.0	2.7	6.7	42.7	40.0	2.7	5.3

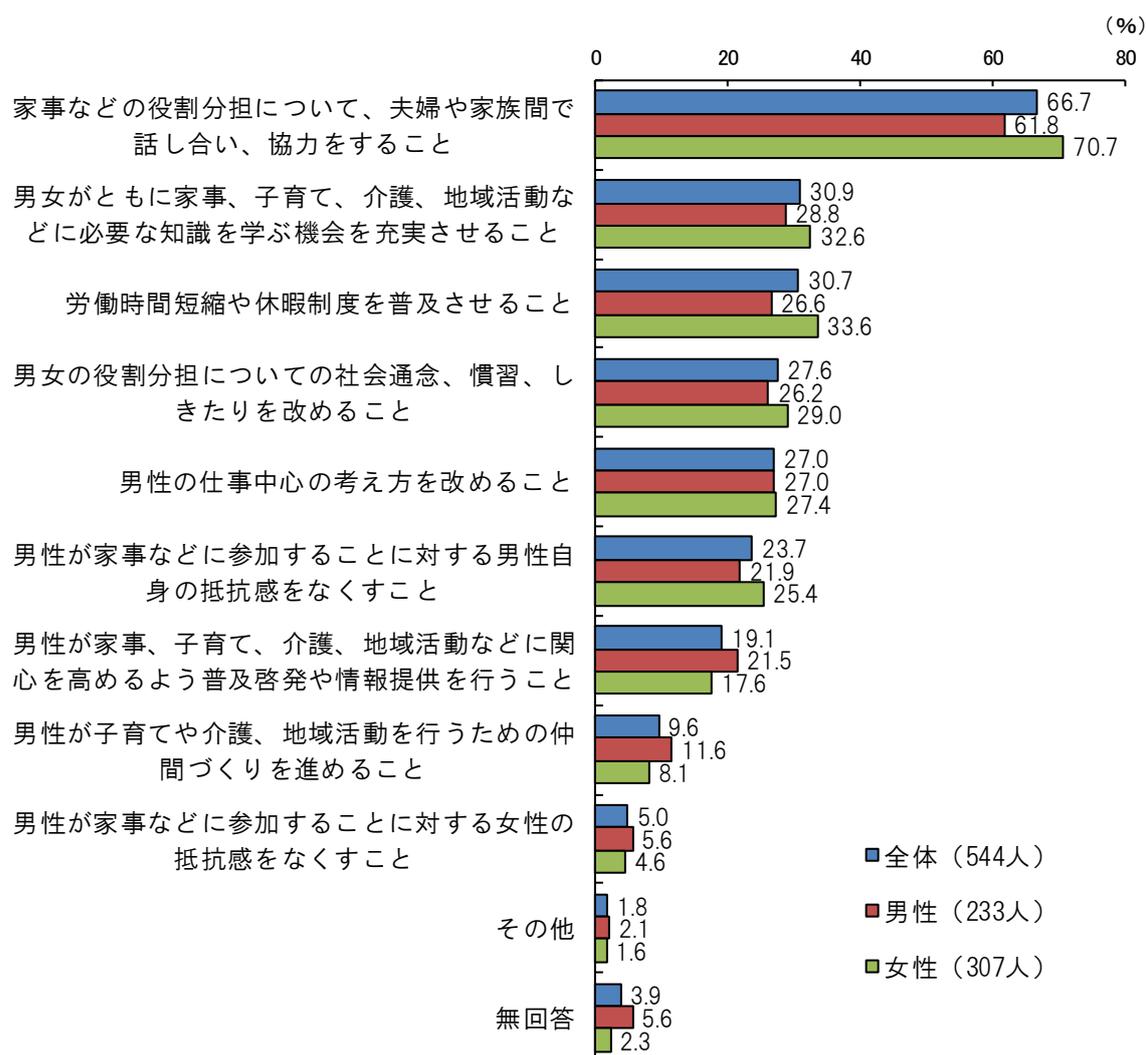
○男性も女性も働きやすい社会にするために必要なことは、女性では「保育や介護のための施設・サービスを充実する」が45.3%と最も多く、続いて「男女に関わらず、育児・介護休暇を取得しやすい環境の整備を図る」が42.3%、「時間外勤務を減らすなど、労働時間の短縮を促進する」が34.2%、「有給休暇の利用を促進する」が29.0%となっています。男性では「男女に関わらず、育児・介護休暇を取得しやすい環境の整備を図る」が39.9%と最も多く、続いて「時間外勤務を減らすなど、労働時間の短縮を促進する」が39.1%、「保育や介護のための施設・サービスを充実する」が34.8%、「有給休暇の利用を促進する」が30.0%となっています。

問13 あなたは、男性も女性も働きやすい社会にするためには、どんなことが必要だと思いますか。あてはまるもの3つ以内で○をつけてください。



○男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、男性では「家事などの役割分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」が61.8%で最も多く、続いて「男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに必要な知識や学ぶ機会を充実させる」が28.8%、「男性の仕事中心の考え方を改めること」が27.0%となっています。女性では「家事などの役割分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」が70.7%で最も多く、続いて「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が33.6%、「男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに必要な知識や学ぶ機会を充実させる」が32.6%となっています。

問15 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるもの3つ以内で○をつけてください。

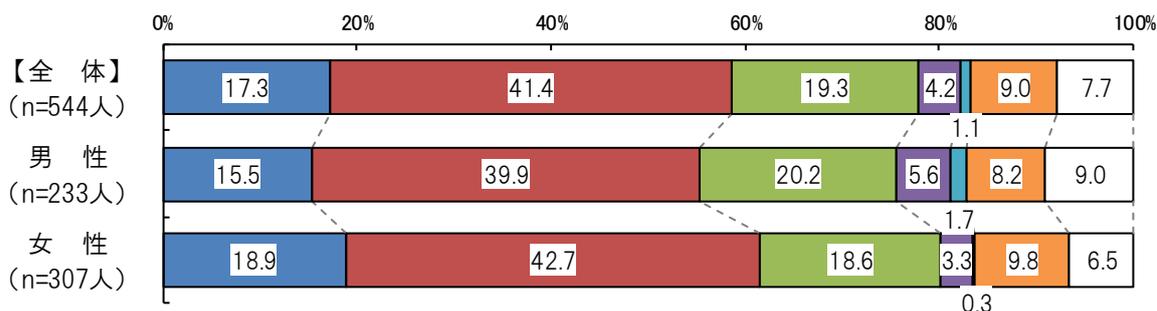


○職場における男女の地位の平等に対する意識では、「どちらかといえば男性のほうが優遇」が全体で41.1%、男性が39.9%、女性が42.7%と最も多くなっています。また、「男性のほうが優遇」と「どちらかといえば男性のほうが優遇」の合計は、全体で58.7%、男性が55.4%、女性が61.6%となっており、「女性のほうが優遇」と「どちらかといえば女性のほうが優遇」の合計の全体5.3%、男性7.3%、女性3.6%を大きく上回っています。

問 26 次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。各項目ごとにあてはまるもの1つに○をつけてください。

イ. 職場

■男性の方が優遇 ■どちらかといえば男性の方が優遇 ■平等 ■どちらかといえば女性の方が優遇 ■女性の方が優遇 ■わからない □無回答



## 【施策の実施状況】

### 課題1 職場における男女平等の確保

- 各種広報媒体を活用し、男女雇用機会均等法や育児・介護休業法、女性の積極的な登用などについて企業や事業所に啓発活動を行っています。
- ハローワークと連携し、女性のための労働相談窓口を設置しています。
- 労働時間の短縮やフレックスタイム制導入、在宅勤務など多様な働き方について、関係機関と連携し企業や事業者の情報提供に努めています。

### 課題2 家庭と地域、仕事と家庭の両立支援の環境整備と充実

- 男性の育児休暇・休業などの取得促進を目指し、仕事と家庭の両立をテーマとした学習会の情報提供に努め参加を促進しました。
- 育児休暇・休業、介護休暇、ボランティア休暇などについて、企業や事業所に情報提供に努め、普及啓発に努めています。

### 課題3 就職・再就職への支援

- 女性の就職・再就職を支援するため、母子・父子自立支援員による就労支援や情報提供など、ひとり親に向けた支援を福祉事務所とハローワークと連携して進めています。
- 職業能力の開発などを支援するため、潮来立図書館にビジネス支援コーナーを設置するとともに、就職無料相談会(茨城県鹿行地区就職支援センターと連携)や、パソコン講座などを開催しています。

### 課題4 自営業における男女共同参画の促進

- 農業における女性の活躍を促進するため、家族経営協定の締結促進や女性農業士の育成に努めています。また、女性農業委員は1名委嘱しており、茨城県農業委員会女性協議会の研修に参加していただいています。
- 女性起業家の育成を目指し、潮来市元気アッププランを商工会と連携して推進しました。
- 関係機関の女性役員登用の積極的格差是正を図るため、関係機関とへの情報提供や啓発に努めています。

### 課題5 職場におけるあらゆる暴力防止対策の推進

- 職場におけるセクシャル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、モラル・ハラスメント防止について啓発に努めています。

## 『基本目標5 国際社会への協調と理解の推進』について

### 【施策の実施状況】

#### 課題1 国際社会への参画促進

○国際交流協会の活動を支援するなど、市民主体の国際交流活動を促進しています。

#### 課題2 国際的協調と理解

○子どもたちからの国際理解を深めるため、小・中学校での国際理解郷教育の充実や中学生の台湾土庫中学校との交流事業などを進めています。

○オリンピック・パラリンピックを契機として、ホストタウン事業を進めるなど世界各都市との交流を促進しています。

○在住外国人の生活支援の充実を目指し、国際交流協会と連携した外国人のための日本語講座の開設や相談窓口の案内、市ホームページの多言語表示などを行っています。

#### 課題3 国際平和・地球環境保全への貢献

○水質浄化を始めとして環境や省エネに関するキャンペーンを実施し、環境保全への啓発活動を行っています。

○テロリスト対策として、市国民保護計画を策定し対応を定めています。

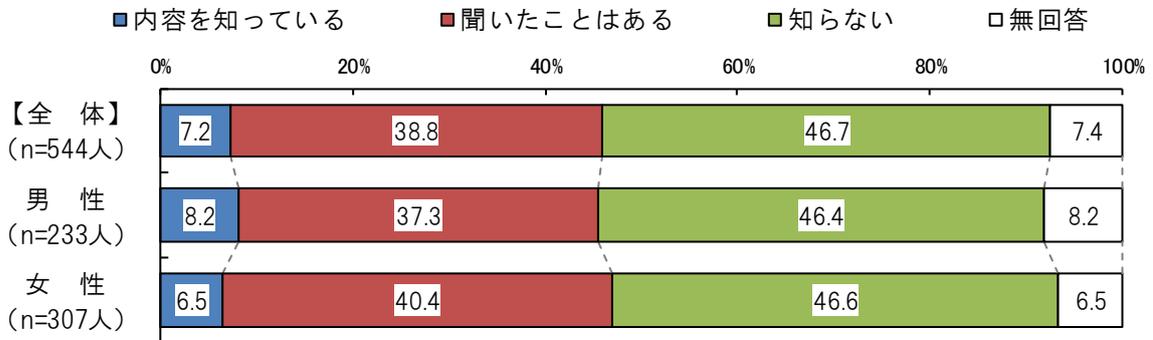
## 『基本目標6 市民と行政一人ひとりの意識づくりの推進』について

### 【アンケート結果から】

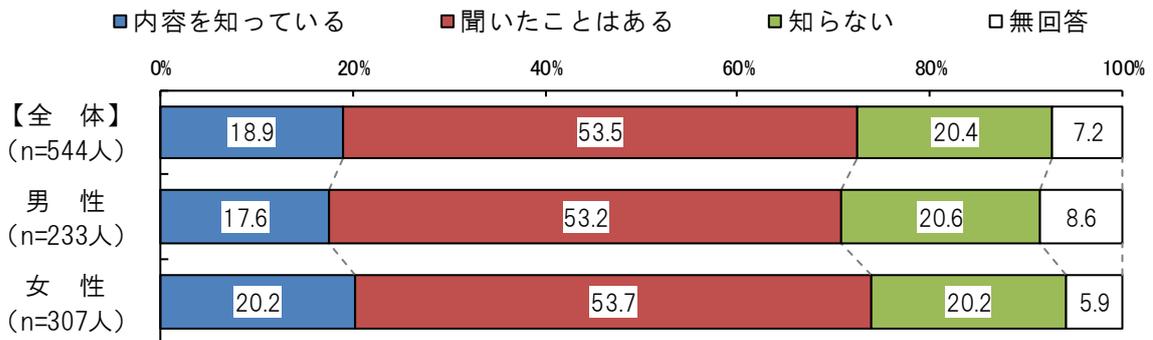
○男女共同参画に関する言葉の周知度を見ると、全体で「知らない」が最も多いのは、『潮来市男女共同参画推進条例』の70.4%であり、続いて『潮来市男女共同参画基本計画』の66.7%、『女性活躍推進法』の52.2%、『男女共同参画基本法』の46.7%となっています。全体で、「内容を知っている」と「聞いたことがある」の合計が最も多いのは、『DV防止法』の74.8%であり、続いて『育児・介護休業法』の72.4%、『性的マイノリティ』の62.3%、『ジェンダー』の53.9%、『ワーク・ライフ・バランス』の53.5%となっています。

問25 次にあげるような言葉で、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはありますか。各項目ごとにあてはまるもの1つに○をつけてください。

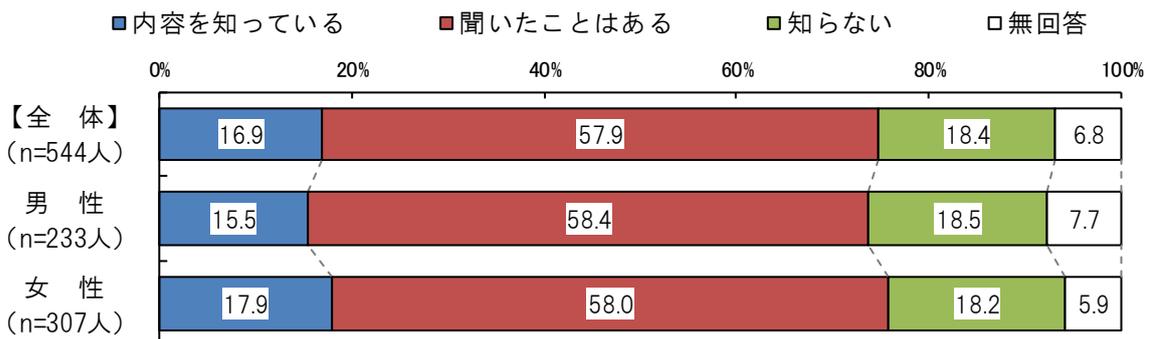
#### ア. 男女共同参画社会基本法



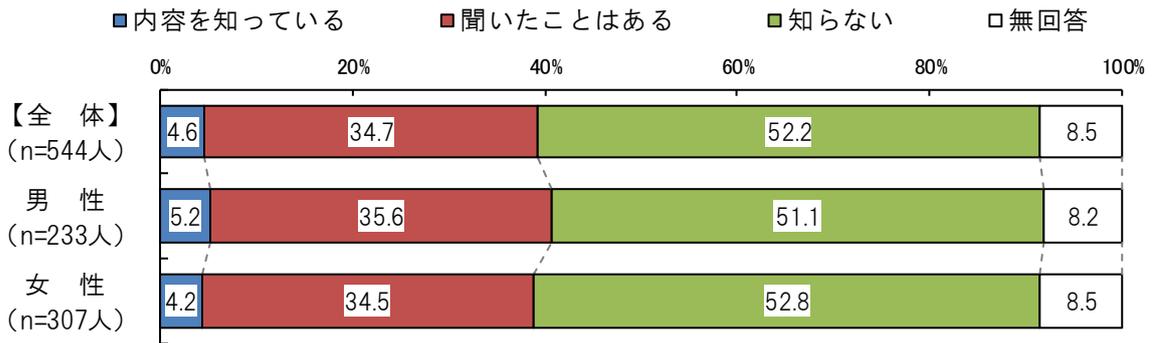
#### イ. 育児・介護休業法



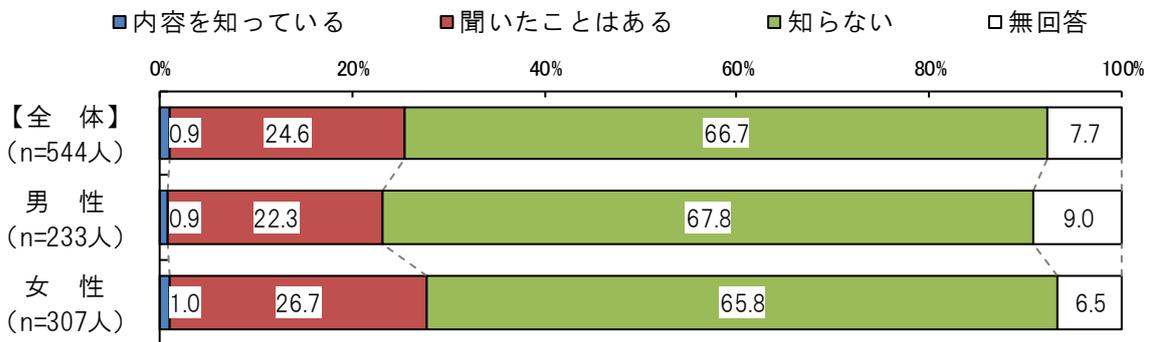
#### ウ. DV防止法



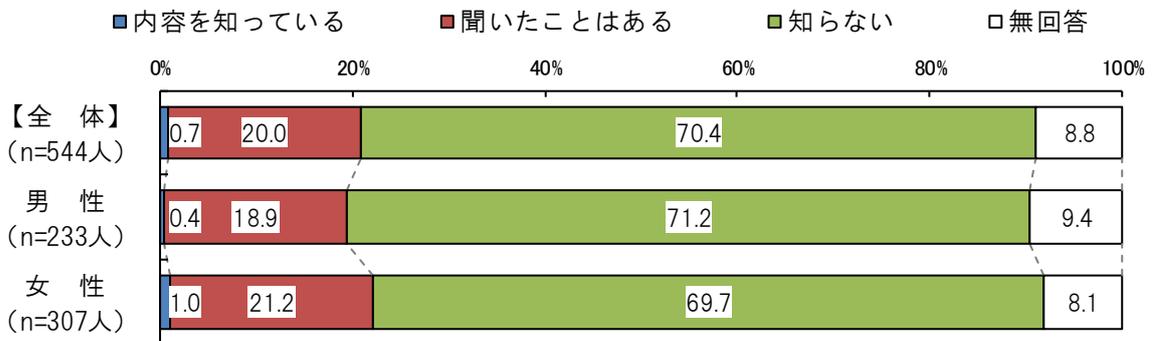
エ. 女性活躍推進法



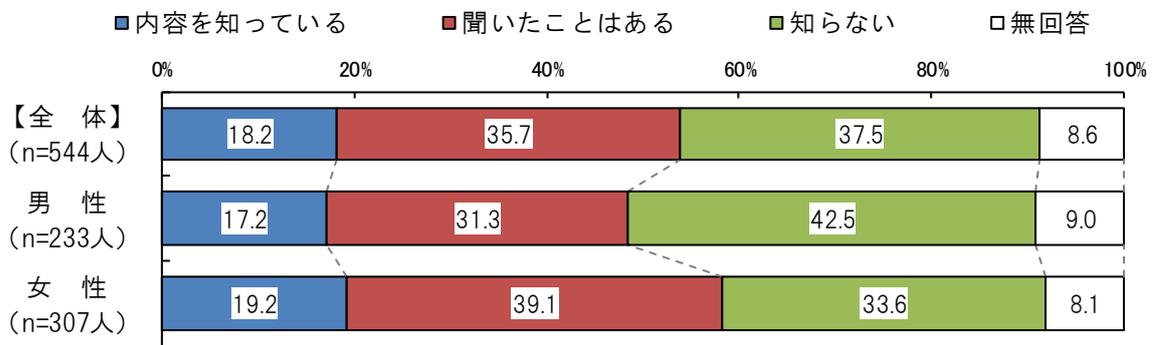
オ. 潮来市男女共同参画基本計画



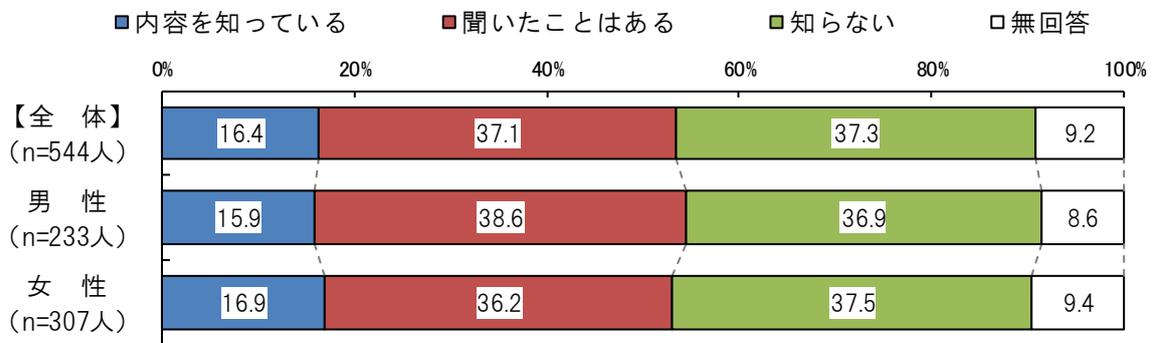
カ. 潮来市男女共同参画推進条例



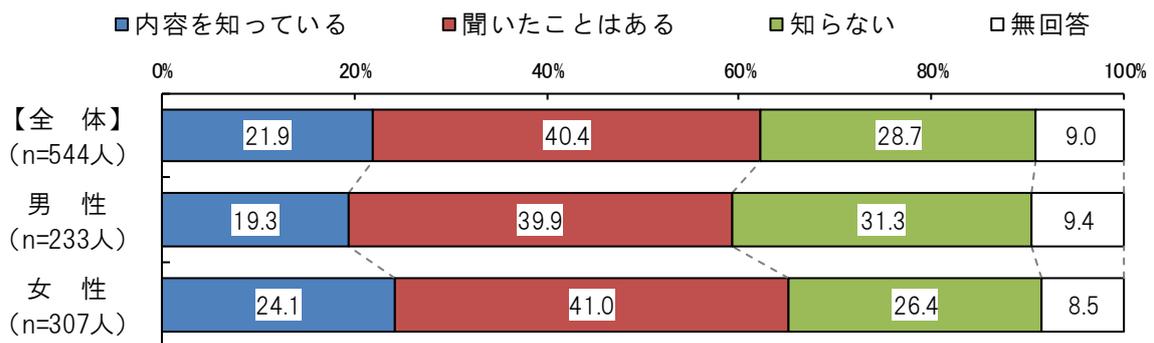
キ. ジェンダー



ク. ワーク・ライフ・バランス



ケ. 性的マイノリティ



## 【施策の実施状況】

### 課題1 多様なライフスタイルに対応する子育て支援

⇒「基本目標3 実現すべき地域の姿 課題2 多様なライフスタイルに対応する子育て支援と」重複

○子育てに関する細かなニーズに対応するため、ファミリーサポートセンターを設置し利用促進を図っています。

### 課題2 職場における人権尊重の推進と啓発

⇒「基本目標4 実現すべき職場の姿 課題5 職場におけるあらゆる暴力防止対策の推進」と重複

○人権教育研修会などにおいて、人権・同和教育・社会的性別(ジェンダー)などに関する啓発活動を進めています。

○青少年団体による有害広告物等の撤去など、青少年を取り巻く環境の浄化を促進しています。

### 課題3 メディアにおける男女共同参画の視点と人権尊重の働きかけ

○広報紙やホームページを活用し、男女共同参画の視点を普及するとともに、学校教育の場でメディア教育などを行っています。

○市の審議会や委員会等への女性の登用を進めるとともに、女性リーダー育成研修、キャリアアップ研修・女性キャリアデザイン研修などを実施し、市職員の管理職への登用を促進しています。

### 課題4 女性のチャレンジ支援策の推進と生涯における健康支援

⇒「基本目標3 実現すべき地域の姿 課題3 生涯における健康支援」、「基本目標4 実現すべき職場の姿 課題3 就職・再就職への支援」と一部重複

○高齢化社会に対応した施策や介護支援体制については、市介護保険事業計画・高齢者福祉計画に基づき施策や事業の充実に努めています。

○ひとり親家庭への支援については、市子ども・子育て支援事業計画などに基づき施策や事業の充実に努めています。

○障害者への支援については、市障害者計画、障害福祉計画、障害児福祉計画などに基づき施策や事業の充実に努めています。

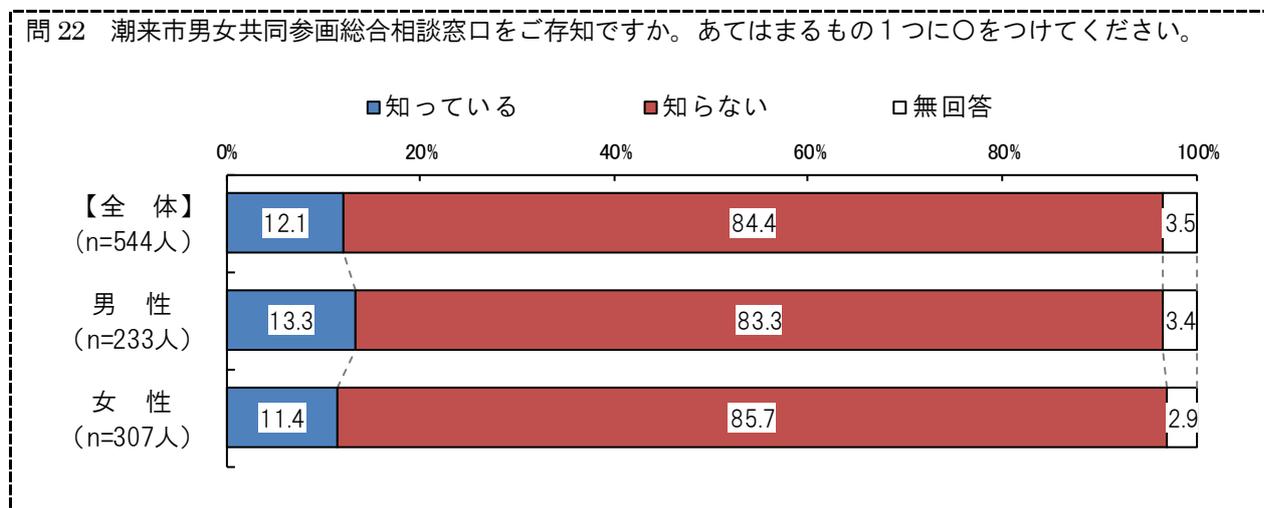
### 課題5 男女共同参画意識の浸透

○広報紙やホームページを活用して男女共同参画意識の啓発やイベントの紹介、男女共同参画基本計画の招致に努めています。

## 『基本目標7 推進体制の充実』について

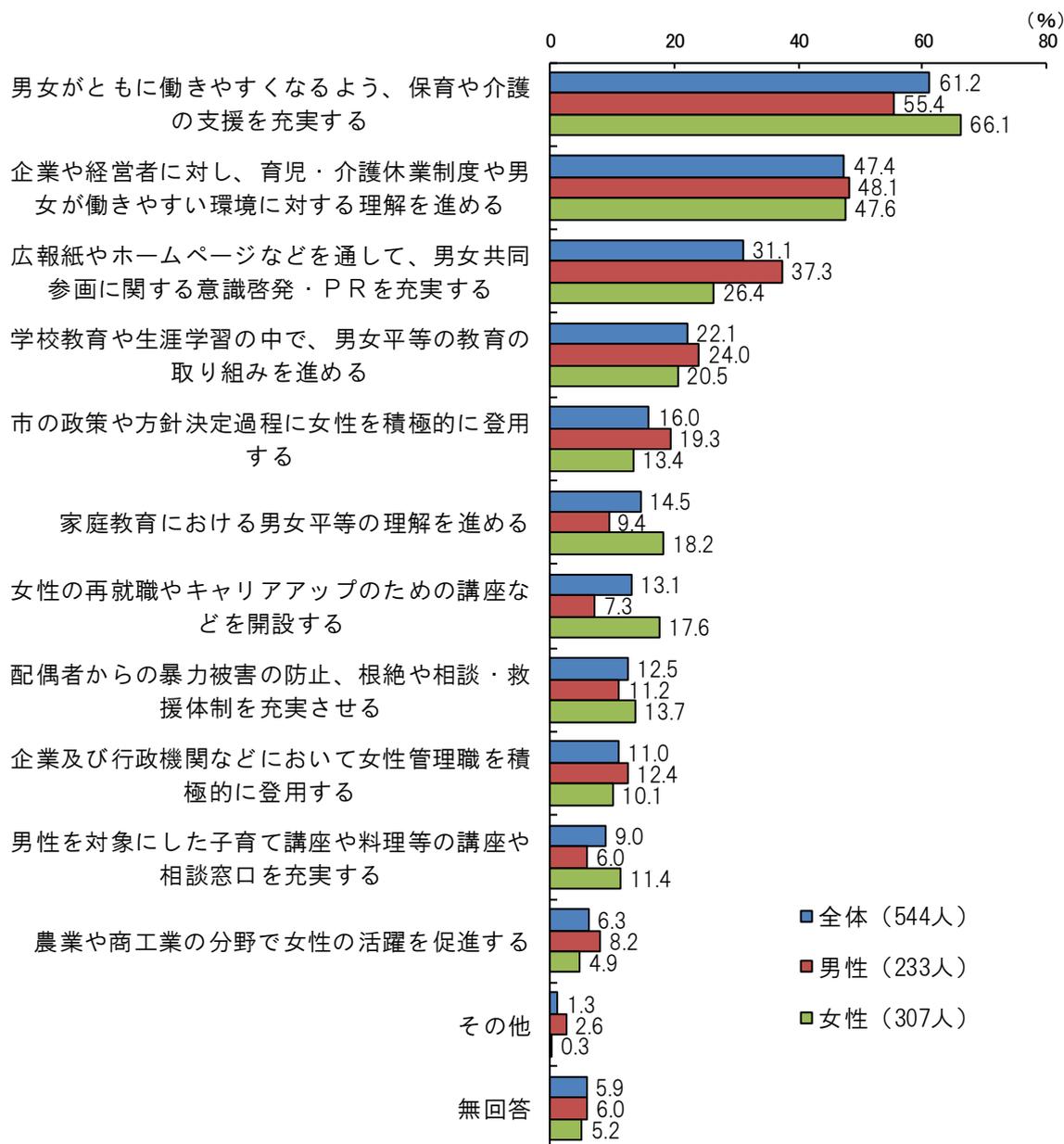
### 【アンケート結果から】

○潮来市男女共同参画総合相談窓口の周知状況は、「知っている」は全体で12.1%、男性で13.2%、女性で11.4%となっています。



○男女共同参画について市が力を入れていくべきものとしては、「男女がともに働きやすくなるよう、保育や介護の支援を充実する」が、全体で61.2%と最も多く、続いて「企業や経営者に対し、育児・介護休業制度や男女が働きやすい環境に対する理解を進める」が47.4%、「広報紙やホームページなどを通して、男女共同参画に関する意識啓発・PRを充実する」が31.1%となっています。

問27 今後、男女共同参画について、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるもの3つ以内で○をつけてください。



## 【施策の実施状況】

### 課題1 政策方針決定過程への男女共同参画の推進

- 市の審議会等における女性の登用率は平成30年度で25.9%となっています。（内閣府公表データ）
- 女性が活躍する団体やNPO団体などの活動を支援しています。

### 課題2 庁内推進体制の充実

- 男女共同参画基本計画の進行管理に努めるとともに、市職員の育児休暇・休業の取得を促進しています。

### 課題3 職員人材育成の充実

- 女性リーダー育成研修、キャリアアップ研修・女性キャリアデザイン研修などを実施しています。

### 課題4 市政への男女共同参画

- 市民懇談会や市政に関する講座、市政モニターなど各種の広報、広聴機会を活用し市政への男女共同参画を推進しています。
- 男女共同参画講座や女性セミナー・女性学級、託児付きの講座などを通じて、男女共同参画の意識啓発に努めています。

### 課題5 相談体制・相談業務の充実

- 市の各種相談窓口の充実を図るとともに、セクシャル・ハラスメントやモラル・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどを含む男女共同参画相談窓口を設置しています。
- 児童虐待やDVに関しては警察と連携を図っています。また、県婦人相談所や鹿行地域の行政機関や医療機関などとの連携に努めています。

## ◆まとめ

潮来市男女共同参画基本計画は、家庭、学校、地域、職場のあるべき姿の実現に向け、市民一人ひとりと行政が一体となって総合的に取り組んでいく内容を示したものです。この計画に位置付けられた多くの施策や事業は、高齢者の介護や生活支援に関する施策や、妊娠から出産・育児、教育や子育て支援に関する施策を中心として着実に推進しています。

また、ワーク・ライフ・バランスの推奨やDV防止法、女性活躍推進法の制定など、次々と新しい制度や概念が登場する中、市民をはじめとして団体や企業に対する啓発活動や情報提供を継続的に実施しています。市民アンケートの結果からは、育児・介護休業法やDV防止法、性的マイノリティ、ジェンダー、ワーク・ライフ・バランスなどに対する市民の認知度は一定程度あることがわかりました。

しかし、一方では、市民アンケートの結果から、市民意識の中にまだまだ「性別役割分担意識」が根強くあること、ワーク・ライフ・バランスの理想と現実には大きな乖離があること、地域活動などの分野などにおいて男性優遇の傾向があること、潮来市の男女共同参画に関する取り組みに対する認知度が低いこと、DVなどに対する当事者の対応体制が未整備なことなど、計画の実現に向けて多くの課題があることがわかりました。

今後は、子育て支援や高齢者支援については、それぞれの分野別計画の着実な推進を図りつつ、市の男女共同参画推進のメッセージを強化するため、男女共同参画推進やワーク・ライフ・バランス、女性活躍、DV防止に向けた施策や事業の充実が望まれます。